

昨年2部降格も感じた手応え 1部再昇格へ

燃え尽きた戦いの男子バスケット

「実は〇〇EDOGAWA BASKET やってました」

関東大学リーグで活躍するバスケットボール部員の多くは中高生時代に全国の舞台を経験済み。みんな幼いころからバスケット筋...というわけでもなさそう。多彩で意外な特技を持つ部員を紹介しよう。

河野 圭佑(経営社会3年、神奈川・東海大相模高)

レスリング ▶▶▶ 下半身の強化

キャプテンを務める河野は幼稚園年少から小学1年までレスリングをしていた。タックルの攻防で低い姿勢を保ちながら動くレスリングで「下半身は本当に鍛えられた」と語る。幼少時に培われた足腰の強さが、バスケットボールに生かされている。バスケにつきものの中腰姿勢がひととき安定しており、競技歴を聞いて納得。

揚野 克基(経営社会4年、東海大熊本星翔高)

ピアノ ▶▶▶ コンクールで受賞

揚野は保育園時代からなんと5年間ピアノを習っていた。母がピアノを弾き、しかもスポーツ好きだったという。それで「ピアノをやっ、リズム感とかを身につかせよう」という狙いがあったようだ。バスケットボールは小学1年から始め、ピアノと並行してプレーしていた。強化部で活躍するように育ったのだから、母の狙いは当たったようだ。ドキュメンタリー番組「情熱大陸」のオープニングテーマが好きで、ピアノを習っていた当時は演奏できた。コンクール出場経験があり、受賞経験もあるというから、続けていけばピアニストの道もあった？

大塚 聖治(経営社会3年、千葉・日体大柏高)

ドラム ▶▶▶ 鍋のふた叩いて...

大塚は小学校低学年のころ、2年間ドラムを習っていた。鍋のふたを叩いて遊ぶのを見た両親が習わせてくれたという。リズム感がさぞバスケに役立っているかと思いきや「全く関係ないです。リズム感ないんで...上半身だけリズム良いんですけど、ちょっと脚は」と苦笑いだった。父と同郷のブラジル人ドラマーから習っていたとあって、「叩ける曲は？」の問いにブラジルの歌手ターレス・ロベルトの「Maravilha」と自信満々に教えてくれた。

☆紙面編集 小川 畑岡 渡邊 勝三 嶋介 雅輝



再昇格を目指す。河野圭佑(左)と河野圭佑(右)は、昨シーズンの関東大学リーグで活躍した。河野はレスリングで下半身を強化し、揚野はピアノでリズム感を身につけた。大塚はドラムでリズム感を身につけた。



再昇格を目指す。河野圭佑(左)と河野圭佑(右)は、昨シーズンの関東大学リーグで活躍した。河野はレスリングで下半身を強化し、揚野はピアノでリズム感を身につけた。大塚はドラムでリズム感を身につけた。

新章突入!! 大出&河野初W主将

強豪相手にも戦えた経験!!

新ダブル主将体制に託す。主将は大出雅輝(経営社会4年、栃木・宇都宮高)と河野圭佑(経営社会3年、神奈川・東海大相模高)の2人が務める。ダブル主将も3年生の抜くも初めてのことであり、再昇格を誓う上級生が監督と話し合ってきた。大出は新人戦で主将を務めて16強に導いたリーダーシップを誰からも認められている。河野はチームを勝たせたい、試合に勝ちたいという熱意が認められ、その熱意をチームに伝染させることが期待されている。河野監督は「指導者の熱心さが重要」とダブル主将体制を説明する。3年生で重責の一端を担う河野は「自分のやることは変わらない。苦しい時、下を向いてしまふ、誰もしゃべらなくなる時間帯が試合中あったので、コートに立った時は常に声を出せるようにしていきたい」と役割を理解している。

監督の熱はもちろん、選手の熱が重要



歩む道が頂上につなげていくことは分かった。部のコンセットである「激しい守備に継続して取り組み、攻撃の精度を高める。大出はディフェンスから速攻、ブレイク。今年もそこをしっかりとしていけないと、最短で1部復帰を狙う。

☆紙面編集 小川 畑岡 渡邊 勝三 嶋介 雅輝

スポニチ

その興奮をもう一枚プリントサービス好評発売中!!

ローソン ファミリーマート セブン-イレブン

マルチコピー機の液晶画面をタッチ

コンテンツサービスを選択

eプリントサービスを選択

地方紙・海外新聞・業界紙・専門紙を選択

スポーツ紙を選択

スポプリを選択

購入する商品を選択

商品内容を確認し購入を選択

商品内容を確認し次へ進むを選択

料金を投入しプリント開始を選択

料金を投入しプリントスタートを選択

スポニチ 宅配版もどうぞ

または最寄りの毎日新聞販売店へ

申し込みはフリーダイヤル 読む人に 一礼

0120・4612・10

24時間OK